



ホア ビン (平和)

HOA BINH レポート

JVPF 内閣府認証 特定非営利活動法人 日本ベトナム平和友好連絡会議(日越友好連)
NPO Japan Vietnam Peace and Friendship Promotion Council

〒162-0801 東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405 TEL 03-3268-4387 FAX 03-3268-6079
c/o. IFCC.#405,TsujiBLD,333,Yamabuki-cho,shinjuku-ku,Tokyo,Japan TEL(81)3-3268-4387/FAX(81)3-3268-6079
http://ifcc1985.com jvccpf@rmail.plala.or.jp



会費/正会員:(個人)5,000円 (団体)50,000円 口座名/日本ベトナム平和友好連絡会議
◎郵便振替 00110-2-188872 ◎三菱東京UFJ銀行・江戸川橋支店(普通)1215225
◎ゆうちょ銀行・〇一九(ゼロイチキョウ)店(当座)0188872

新年とTết (テト) を祝して 友好交流の発展へ



回忌を風化させないことへ通
じるかと思います。

新年にあたり、あらためて
JVPF の活動が「平和と生
存」のための日本とベトナム
の友好交流に少しでも寄与
できればと思います。それが
ひいては日本国内、アジア、
世界への繋がっていくことにな
るだろうと祈念致します。

2016 年

新年とテトの日

上: 秘境ハザン省の天国の門と称さ
れる山からクアン・バの双子の
山を望む(2016年11月26
日)
右: 10年目に入った村山日本語学
校で書道デモンストレーション
(2016年11月30日)

昨年は、新しくベトナム
北部ハザン省で少数民
族出身中学生奨学金支
援事業を開始したこと、
枯れ葉剤被害者支援チ

ャリティーコンサートが 21 年を数えたこと、そして 2017 年に
開設したホーチミン市の村山記念 JVPF 日本語学校が 10
年目に入ったこと、など特筆された年でした。

また、各地の JVPF 支部や会員の方々の活動も発展をし
てきました。

JVPF は発足にあたり友好のみでなく『平和』を掲げその
活動の柱を枯れ葉剤爆弾被害者支援活動としてきました。昨
今、ベトナムとの交流の隆盛は目を見張りますが、『平和』
をあえて掲げた意味が「今」あらためて問われてきているよ
うです。

今年も枯れ葉剤爆弾被害者支援のためのチャリティー活
動を続けていきます。そのことが福島原発事故被災者の七



本号の内容

- ハザン省奨学金及び枯れ葉剤被害調査等、タイビン省枯れ葉剤被害家庭慰問、ラムドン省奨学金授与—2016 冬 JVPF 友好訪問報告
- ベトナムアンサンブルコンサート報告/益城町、阿南市、いわき市、小川町
- 各地活動報告——福岡、広島、埼玉
- 掲示板

第十回総会のご案内

2017 年 5 月 27 日(土)午後 2 時 30 分より
後日、正式ご案内を致しますので、ご予定お願いします。
※2017 年のテト(旧暦元旦)は 1 月 28 日です

2016JVPF 訪問団報告

～少数民族学生奨学金支援、枯れ葉剤被害者支援の旅～

ハザン省

少数民族出身中学生へ奨学金開始

鳥飼 謙二 (JVPF 宮崎支部)

2016JVPF ベトナム友好訪問団の一員としてハノイ市の北東 310 キロに位置するハザン省のハザン市を訪問しました。

今回の訪問の目的の一つは、ハザン省 Vi Xuyen (ヴィ・シュエン) 郡少数民族中学校 (4 年制) の生徒への初年度の奨学金授与式参加です。



2016 年 9 月に入学した新 1 年生の年から 10 人を支援することになりました。そのうち JVPF 宮崎支部としては、今後 4 年間、5 人の生徒を支援しますが、ほかに日本在住のベトナム人 4 人も賛同したいということで、一緒に支援することになりました。贈呈式では、モン族の踊りでの歓迎もありましたし、支援を受ける生徒からのお礼の言葉もありました。実に堂々として、はっきり自分の思いを話してくれたことが印象的でしたし、子供たちの表情が素晴らしいでした。

また、贈呈式に、地元の教育長をはじめ、全校生徒と先生、そして支援を受ける生徒の親も遠く 50 キロも離れたところからバイクで参加して下さった方もいました。

ハザン省

貧困地域ハザンで枯れ葉剤被害者慰問

鳥飼 謙二 (JVPF 宮崎支部)

慰問①ハザン市：生まれて以来、全く動けない子どもを年老いた母親が世話をしている。

その感動的な贈呈式の翌 11 月 27 日、

枯れ葉剤被害者宅を訪問しました。

一軒目の家では床に寝かされた 1975 年生の三男 (41 歳) の姿に衝撃を受け、突然水俣病のことを思いました。三男の身体は硬直し会話もできず、知的障害により意思の疎通はほとんどできないように思われました。

生まれた時には体が肉みたいに柔らかく 11 歳でようやく椅子に座れたと言います。ごはんも少しだけしか食べられず、お粥などを与えているという。ハザン省では最も重い障害とのことでした。

政府からは被害者としての認定は受けているが、その補償は不十分で、年金 130 万ドンを受けているとのことでした。生活は母 (75 歳) の年金 240 万ドンで暮らしているようでした。ハザン省には支援するセンターはあるが母がいるということで利用できないと言っていましたし、将来どうするか不安であることが話されました。

父は 15 年前に 59 歳で死去し (1966 年～74 年に従軍)、兄弟は 3 人で、長男 (45 歳)、次男 (43 歳) は軍隊入隊前に生まれていたということで、身体健全で結婚しています。

41 年前に終結したベトナム戦争の枯れ葉剤散布による後遺症の悲惨な現実を目の当たりにし、戦争の罪深さを思いました。

ベトナム戦争でアメリカ軍がベトナム全土に空中散布した枯れ葉剤の内

2016JVPF 訪問団は 11 月 5 日～12 月 1 日、都合 12 人の参加で実施されました。北部ハザン省少数民族学生奨学金贈呈、ハザン省枯れ葉剤被害者慰問、タイビン省枯れ葉剤被害者リハビリ施設及び被害者家庭慰問、タイビン博物館見学 (200 万人餓死事件)、ハノイで越日友好協会との会見、ホーチミン廟見学、ラオドン省少数民族学生奨学金贈呈、ホーチミンでクチ・トンネル、統一会堂、戦争犯罪博物館見学、村山富市記念 JVPF 日本語学校訪問など盛り沢山のプログラムでした。



主なものは、204 ジクロロフェノキシ酢酸 (2・4D) と 2・4・5 トリクロロフェノキシ酢酸 (2・4・5T) の混合剤 (通称 エージェント・オレンジ) でした。当初は、南ベトナム民族解放戦線の弱体化を目的とし、その兵士たちの隠れやすい森林の枯死などを狙ったものでしたが、戦争中期には「ホーチミン・ルート」周辺の森林まで破壊する大

規模作戦となりました。散布面積は日本の四国全体の面積に匹敵しました。そして、あろうことか、この枯れ葉剤の中に、非常に毒性の強い、催奇性・発がん性を持つダイオキシンが含まれていたことが判明し、アメリカ政府は 1971 年春、枯れ葉剤作戦を中止しました。しかし、遺伝子をも破壊する、この史上最悪の散布を受けたベトナムの人々は今なお、三世代になっても苦しみ続けています。

慰問②ハザン市：左端がから障害を持つ長男 (二世)。3 番目はその子ども (三世) で虚弱、2 番目が母親。4 番目は次男。

次に訪問した枯れ葉剤被害者も母子家庭です。子どもは 3 人で、全て障害を持っており、41 歳の長男、次男 (34 歳) は公務員、長女 (36 歳) は視力低下があるとのこと。亡夫 (66 歳で 9 年前に死亡) は、ベトナム戦争で大激戦地となったクアンチ (南北の境界線



もある)で5年間従軍したが、その間、枯葉剤の影響を受けたとのことでした。

41歳の長男は外見は障害がないようでしたが骨髄のがんや肝臓の障害もあり、学校にも行けず、仕事もできなかったと言います。知的な遅れがあるようで枯葉剤の影響を受けているようでした。

長男は結婚後妻が失踪し、自分の長男(16歳)と次男(11歳小学生)と母と4人で生活しています。長男の長男は皮膚病があるといい、次男は小児症で現在80センチないとのことこれも枯葉剤の後遺症と思われます。

世代を超えた影響に、この家庭訪問でもショックを受けました。

戦後は夫の軍人恩給があったが現在は180万ドンの生活保護を受けているとのことでした。本人(長男)は認定患者で79万ドンの年金を受けています。

ハザン省では、枯葉剤被害者は3200人、ハザン市で600人(そのうち認定が210人)いるということでした。

初めてのベトナム訪問でしたが、戦争の悲惨さ、戦争を仕掛けたアメリカ政府の非情さ、それは、アメリカ同様、太平洋戦争で近隣諸国の人々に言い尽くせない苦しみを与えた日本人の非情さでもあると痛感しました。

タイビン省

タイビンで2軒の枯れ葉剤被害者慰問

慰問③タイビン省：全身に皮膚障害を持つ元・兵士。帰省後発症。
記：角山優子(新潟)

11月28日、タイビン省の枯葉剤爆弾被害者の家庭を2軒訪問しました。1軒目はゴット(ngot)さん。1955年生まれで60歳。17歳で軍隊に入り28歳までベトナム中部の

ダクラクで戦った。そのとき直接枯葉剤を浴びた。戦争から帰る5年後くらいから皮膚に障害が出てきた。ハノイの中央病院で手術したがずっと今も具合が悪い。いすにすわると胸が痛くなる。肉のにおいが気持ち悪いので肉は食べられない。

家族は長男が死亡し、奥さんと二男と三男。2人とも父と同じ皮膚の障害が出ているが縫製とか清掃などの簡単な仕事についている。結婚して子がいるがその子も眼が悪い。

家族で籠編みの内職をして、あと年金470万ドン(1か月)

が支給されるが生活は大変そうだった。枯葉剤爆弾はそれを直接浴びた人だけでなく、子、孫(それぞれに一人づつ)にまで被害が及んでいることを眼のあたりにし、心が痛んだ。

慰問④タイビン省：精神疾患を患う子ども。徘徊、凶暴の症状の為、隔離部屋にいる。母親が一人で面倒をみている。

記：有川洋美(鹿児島)

私は生まれて初めてベトナムの地に降り立ちました。ベトナムに関して、私が持っていた知識は、ベトナム戦争、そして枯葉剤による被害。その程度でした。

11月28日、私たちはタイビン省の枯葉剤被害者家庭慰問に行きました。

門をくぐると女性の声がずっとしている。家

の中には誰もいなかったが扉が開いている。私たちはその家の中に入っていった。女性の甲高い声がする方向を見ると数名の人々が集まっている。門に近い、しかし居間と離れた部屋には檻がはまっていた。その檻の部屋には、美しい女性、しかし神経質そうな表情をした女性が人々に向かっ

て一生懸命話しかけていた。私は非常に緊張してきた。なぜなら、今なお障害を持つ娘さんと暮らすご家族に、多くの辛い質問をしていかななくてはならないからである。

この女性と暮らしているのは、69歳のお母さんでした。夫は1940年生まれ。1966年、つまり26歳の時に軍隊に入り、ベトナム戦争に参加されました。そして枯葉剤の被害を直接受けたそうです。1970年に戦争から帰ってきて、二人は結婚されたそうです。

しかし、夫はその後、発症し入退院を繰り返します。病気は精神障害です。2009年にお亡くなりになりました。亡くなる3ヶ月前に、枯葉剤被害者として認定されました。しかし、亡くなった時にまだ受給開始されておらず、その後未だ、夫の補助金はもらえていないそうです。

このご夫婦にはお子さんが5名いらっしゃいますが、そのうち一緒に暮らしている4女(34歳)が精神障害。末っ子の息子さん(28歳)も精神障害です。お子さん達は結婚されていて(精神障害を持つ息子さんも)お孫さんが10名いらっしゃいます。このお孫さん達は、全員「頭が痛い。」と現在、言われているそうです。

精神障害を持つ娘さんと息子さんのうち、国から認定され補助金を受給できているのは、息子さんのみだそうです。娘さんは認定されていません。

夫と娘さんの症状は同じで、1週間に2日は正気に戻りますが、残りの5日間には興奮状態のようです。お母さんに対して、暴力を振るう恐れがあるため、檻のついた部屋に閉じ込めていらっしゃるとのことでした。そうでないとお母さん

に危険が及ぶからです。夏は暑いから扇風機を入れても、娘さんが感電しそうになったことがあって今は入れていないそうです。そのためか、全裸になってしまうこともあるとのことでした。

そんな生活をしているお母さんは



「とても大変な生活です。」とおっしゃっていました。それなのに、娘さんは枯葉剤被害者として認定されています。そして先にも書きましたが、娘さんと同じ症状であった枯葉剤被害者と認定された夫の補助金は、未だお母さんには受給されないという厳しい現実です。枯葉剤被害者認定の制度の甘さと、現在にも続く枯葉剤の被害の厳しさと、福祉の遅れを感じました。

今回のベトナムの旅を通じて、障害を持って生まれてきた人々が、そしてそのご家族が、尊厳を持って生きていける世の中にしていくために、私は日本に帰って、福祉の現場で学びを継続していくことを決心しました。

そして、私たちにお話をしてくださったお母さん、娘さん、ありがとうございました。

く、「200万人餓死などなかった、あり得ない」「共産国家は平気で嘘の発表をする」などの宣伝は行われています。

従って、国内でも多くの方が努力されていますが、今回の調査を契機に、さらに活動を広げていかなければならないと感じました。

「200万人餓死」は、1945年ホーチミンによる「ベトナム独立宣言」でも明記されていますし、現地に派遣された日本兵の手記でもその惨状は報告されています。

もちろん、いろんな要因もあったようです。餓死発生と同じ 1944～1945 年発生した大飢饉が要因という「日本の主張」ですが、ベトナムでは、これ

ラムドン省

4 年目に入った奨学金支援

山下順子（鹿児島 JVPF）

JVPF 鹿児島支部は、ラムドン省ダラット少数民族高校生の就学支援を始めて 4 年目を迎えました。今回、新 1 年生 10 名、2 年生 9 名、3 年生 8 名に奨学金を渡し激励するため、鹿児島から 5 名、新潟から 2 名ほか JVPF



F、通訳の方総勢 12 名で去る 11 月 29 日に学校を訪問しました。

学校に着くと校門で校長先生ほか 3 名の先生方と 5 人の生徒が笑顔で出迎えてくれ、授与式の会場では、奨学生と少数民族の伝統芸能の踊りと歌を披露してくれる生徒達が拍手で歓迎してくれました。

授与式は、女生徒による少数民族の伝統芸能の踊りと歌で始まりました。民族衣装での踊りと歌はとてもすばらしく心を打つものでした。校長先生からは「JVPF を通じて奨学金を受けられるようになって 3 年が過ぎました。喜んで皆さんをお迎えします」という挨拶があり、生徒から感謝の大きなバラの花束が我々に贈呈され、恐縮もし嬉しくもありました。

JVPF 鹿児島支部からは、菊川明さんが挨拶と「夢、目標を見つけ実現するために努力してください」という励ましの言葉を贈りました。

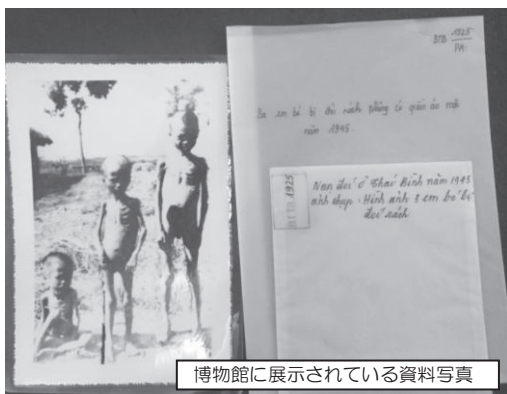
奨学金（1 人 15000 円）は嬉しさに瞳をキラキラさせている生徒一人一人にアイコンダクトと握手で 1 年生から順に手渡ししました。奨学金の外、参加者個人のプレゼントとしてノートとボールペンも渡されました。

最後に奨学生代表として 3 年生のク・ヴィさんが「奨学金を受け、皆さんで頑張っています。奨学金をもらえたことは素晴らしいチャンスだと思います。言葉では表せないほどありがたい気持ちを持っています。これからも

タイビン博物館

タイビンで「200万人餓死事件」の真相に触れる

川路 孝（鹿児島 JVPF）



博物館に展示されている資料写真

2016 年 11 月 28 日、タイビン省「タイビン博物館」を訪問しました。

初めての訪問でしたが、当日は休館日。しかし、特別に入館が認められ、私たちの目的であった「200万人餓死事件」に関する写真など見せて頂きましたし、記念館の責任者とも意見交換をすることができました。

記念館には、当時の写真の一部は展示されていましたが、展示されていない多くの写真もあり、特別に見せて頂きました。「特別コーナー」を作って展示する計画はないかと聞きましたが、現段階では計画していないという事でした。

そもそも、「200万人餓死事件」、日本ではあまり認識されていません。私たちの運動の不足がその要因と思いますが、一方では、南京大虐殺と同じ

まで何回もの大飢饉が発生した歴史があるといいますが、これだけ

多くの餓死は発生していなかったという事です。

餓死の一番の要因は、日本の侵略です。①1940 年ベトナムに進駐して以降、5 年間で 355 万トンの強制調達、1944 年には、翌年の種モミ含めてほぼ全量を強制調達したこと。②コメの生産ではなく、軍事物資の為のジュート（黄麻）の生産を強要したこと。

③連合国軍の爆撃を理由に、南部からのコメの輸送努力をしなかったことなどがあるようです。

いずれにしても、戦争によって、日本の侵略によって当時のベトナムの人口の約 10 分の 1 にあたる「200万人餓死事件」が起こっています。博物館での話で、ある村は住民の 79% が餓死したとのことでした。

日本の侵略、加害の歴史を忘れてはなりません。まして、200 万人餓死という史上空前の大惨事です。

これから、しっかりと現実をつかみ、運動を広げていきたい。二度と戦争を許さない運動を広げていきたいと思ひます。

っと頑張って勉強します。」という主旨のお礼の言葉を述べてくれました。

一部の生徒であれ安心して勉学に励む機会を我々の支援で得られたことは、学生やその家族にとって、嬉しいことであると同時にベトナムとの友好の発展の一助になるだろうと確信しております。

一方、課題も残りました。

学校との連携が不十分で、我々が最も大切にしたいと考えている奨学生と

の交流の時間がとれず、生徒一人一人の思いや学校生活や将来の夢など、聞き取りができませんでした。

また、昨年の二の舞（授与式の最中に退学者が出ていることがわかった）はしないという思いで準備したにも関わらず、今回も授与の段階で二年生に 1 名の退学者が出たことが明らかになりました。事務局の不備を痛感しております。各学年 10 名という少人数規模であってもサポーターと学校、学生

との信頼関係を築きたいという思いがなかなか具体化できません。このままでは単に経済援助しているというだけで終わってしまうのではと危惧しております。

今後、これらの課題を解決し、本来の目的を取り戻す中で新たな支援者の確保など支援活動のさらなる発展充実に取り組みたいと思います。

21 年を経た枯葉剤被害者支援チャリティーコンサート 支援、そして相互交流

熊本・益城町
被災者の方から「良かったよ！」

公演後、被災者の方から「ほんなこつよかった、他かん人にも見せたかった」言われた。二日後、停年を迎える方からカンパと手紙が寄せられ「ベトナムに行ってみたくなった」と労いの言葉が送られました。

やって良かった、皆さんも感激していた。

益城公演は綱渡りハラハラの連続、被災者の皆さんは鑑賞どころではない状況で観に来て頂けるのか、不安で一杯でした。

8 月末に益城開催を決意、実行委員会結成は無理と判断、少人数で動くしかないと決断、労働組合も少なく、社民党も無いに等しい地域、「被災者の方は無料」と決めた時から腹をくくりました。「公演までの 50 日間、動き廻るしか

い」心に決め、益城通いを始めました。

前半の 10 日間は協賛を頂いた連合熊本、県労働者福祉協議会の構成団体から協賛広告（35 件）を頂くことに集中。

中盤は仮設へチラシ配布、町内会役員への働きかけ、住人への鑑賞呼びかけ、そして被災状況や生活環境を聞き、糸口を探しながらのオルグを開始。

13 か所の仮設住宅にチラシ 1500 枚を撒く、あと一つ反応が良くないのに気づく。「夜は怖い、出たくない、交通の便が悪く昼なら行くのに、それどころか」等の声が気にかかり戦術変更を決意。

一部損壊、半壊の被災者で家に住ま



公演に先立ち益城町役場を慰問（左から 4 番目：ベトナム福岡総領事館・ホン総領事、5 番目：西村博則町長、6 番目：在日ベトナム仏教会信者会タム・チ会長



地震被災者支援コンサートでは「在日ベトナム仏教会信者会」の会長 Thich Tam Tri さんが揚げ春巻きを配布慰問。また同会から 20 万円の支援金を寄付いただいた。

御礼 アンサンブルは、10 月 14 日に来日し、12 回のチャリティーコンサート（うち、1 回は熊本地震被災地支援コンサート）、2 回の友情演奏会（小学校、住民との交歓会）を行い、11 月 1 日に離日致しました。来場者は約 3000 人、チケット購入協賛者は 5000 人ほどとなりました。

21 年目の今年のコンサートは、幾つの特徴がありました。

相互交流として熊本地震被災地（益城町）で支援の無料コンサートを行いました。これには在日ベトナム仏教会信者会から協賛支援金をいただきました。広島・**福山市**では基督協会のミサ・ホールで演奏し、市内の港町では住民の方と音楽と春巻きで交歓会が実現しました。埼玉・小川町と**西東京市**のコンサートではオペラ歌手（角田和弘さん）や日本人の隻腕のギタリスト（橋本道範さん）にゲストとして参加していただきました。

また宮崎・**小林市**では「文化会館」の自主事業公演としてコンサートを行うことができました。鹿児島・**姶良市**、香川・**三木町**ではそれぞれ 400 人近い参加者を得ました。**大分市**では明日香日本語学校の記念行事として開催いただき村山富市 JVPF 会長も参加いただきました。福岡市ではドクさん（いわゆるドクちゃん）をホーチミン市から迎えアピールをしていただきました。佐賀・**小城市**では 10・21 反戦デーに合わせて開催していただきました。

その他、各公演地で言葉に尽くせない開催への工夫あるご協力をいただきました。

れている方に呼びかけようと判断、約 1400 軒をひたすら廻る。すると効果が出だした。

私の携帯に「被災証明が必要ですか」「家族を連れて行きたいが」「ベトナムから来るのですか」等、反応が届き出した。

これなら行けると判断した。

更に役場職員全員にメール配信を頼むことに成功、有線放送で各集落に呼びかける事も了解を貰う等、職員から知恵が届く。

町職の委員長が仲間に呼びかけてくれ、花束贈呈も引き受けてくれた。JAM井関労組も動き出した。希望の糸が確実に繋がり出した。岩田智子県議が実行委員長に、司会は山都町の市民運動のリーダー西田さんを岩田県議が説得。ベトナム福岡総領事館・ホン総領事、在日ベトナム仏教信者会タム・チ会長も出席される等、被災者への激励に感激する公演でした。(熊本・野田邦治)

徳島・阿南市 コンサートは上々の首尾に

私は 1971 年生まれである。私にとってのベトナム戦争は教科書レベルの知識でしかなく、今回のコンサートの趣旨であるベトナム戦争において困難な状況にある子どもたちの支援といっても、正直なところお話をいただいた時点ではピンと来ていなかった。

太平洋戦争時における日本を含めた東アジアの被害状況やその後の話については終戦の日を前後にして毎年のように報道されるので、不十分ながらも知識はそれなりにあると自負しているが、ベトナム戦争となるとかなり意識



しないという情報に触れることもないのでないか。実際、このコンサートの周知に当たっては特に若年層への浸透に手ごたえを感じられず、不安を抱えた

ままでのコンサート当日を迎えた。

結果として 250 名ほどの来場者を迎え、口々に「感動したよ」とか「いい演奏を聴かせてもらった」と好評をいただき、コンサートとしては上々の首尾に終わったともいえるが、来場者の年齢層をみると高齢の方が多く、私の憂慮は当たった形となった。

当組合においても青年部を中心に平和活動にも積極的に取り組んではいるものの、常日頃から意識できているかといえそうでないことが図らずも露呈してしまった。いつ日本も戦火に巻き込まれるかも知れない法律が可決され、実行に移っている今こそ平和に対して「無知・無関心」ではいけないことをしっかりとこれからの世代に認識させていかなくてはならないことを確認できた今回のコンサートであったように思う。

最後に、今回のコンサート開催に当たってご協力いただいた数多くの団体・仲間の皆様に感謝するとともに、この活動が末永く継続できるよう今後とも微力ながら協力させていただくことを約束させていただく。

(徳島県阿南市職員労働組合書記長 山口 裕之)

埼玉・小川町 やってよかった！ ゲストに角田和弘さん(オペラ歌手)

10 月 30 日、埼玉県小川町のパトリエおがわで「2016 ベトナムアンサンブル埼玉公演」(主催：ベトナム民族アンサンブル小川公演実行委員会、協賛：埼玉中央農業協同組合・小川ロータリークラブ・東松山むさしロータリークラブ・埼玉弁護士会熊谷支部・(財)原爆の図丸木美術館、後援：小川町・小川町教育委員会)が盛大に行うことができました。

小川町実行委員会(代表：杉田伸子元町議)の取り組みは延べ 6 回の実行委員会を開催し、準備段階では、多くの方に、当コンサートに協力を仰ぐために、「ベトナム戦争と枯葉剤被害」(DVD 上映)学習会を開き、協力



者の拡大を進めました。特に大型スーパー「ヤオコー」にベトナムから 30 名の仲間が今年から 3 年間、働いていることがわかり、「全ヤオコー労働組合」の方と交流することができたことです。また、「広告」は、51 件申し込みがあり、大きな成果でした。

公演は、今回、「日曜日・昼間の時間帯開催」は、はじめての経験でした。不安はありましたが、253 名の入場があり、ほっとしました。(チケット 309 枚前売り)もう一つの経験は、スペシャルゲストとしてオペラ歌手の角田和弘氏をお招きしました。答えは、公演終了後のお客様の一言「角田さんの歌は素晴らしい。帰れソレントは昔、高校の時、音楽で、原語で歌っていて、とても懐かしかった。ブラボー」他にも多くの声を聞きました。良かったです。最後に「会場アンケート」からの声を紹介します。大変良かった 100%です。「初めてベトナムの楽器について知ることができました。楽しいコンサートでした」「片腕のギター演奏も印象に残った。自分もギターを弾くが、感動しました」「演奏会に来るまでは、どんなことかとも思っていたが、大感動となり、貴重な機会となった」「ベトナムの演奏者に笑顔があり、素敵でした」「小学生の娘にも、ベトナムの国、音楽を教えたいと思いました」多くの声がありました。

私たち実行委員会一同、はじめは、どうかな？という気持ちで出発したが、最後は「やってよかった」の一言で実行委員会を解散しました。(事務局：村田)

福島・いわき市 原発事故から5年を経る中で

私は、今回のコンサート開催（受け入れ？）にあたり、地元実行委員会の事務局を担当しました。このコンサート開催の話は、実は2年前からあったものの、当時は震災・原発事故の影響から自分の仕事が忙しかったため、とても対応できないと思いお断りしました。

以前、いわきでこのコンサートを開催したのは2007年でしたが、私は事務局の一員として携わり、取り組みの意義も認識していました。今回は、一度お断りしたものの、2年連続でお断りをするのは、ベトナムの枯葉剤被害者の支援に全く取り組まないことになってしまふとの思いから、開催をめざすこととしました。開催にあたっては、前回と同様に実行委員会を結成し進めようと考えましたが、中心となってもらう社民党いわき・双葉総支部は、9月の市議選が最重要課題で、代表も幹事長も市議として再選をめざして必死に闘っているなかでは、具体的な話を進めるこ

とができませんでした。事前に会場のみを確保しておき、それ以外は市議選が終わってから一気に進めることとしました。幸い代表も幹事長も再選を果たすことができたことから、すぐに実行委員会を開催、協賛者の確保をはじめ具体的な取り組みを急ピッチで進めました。

今回、私が所属する市職員連合労働組合が結成50周年を迎えた



ことから、記念事業として協賛を得たことはグッドタイミングでした。また、市議会議員や元市議の先輩に同行して、普段はお会いすることのない各団体を訪問し、協賛依頼をしたことは貴重な経験でした。

原発事故から5年を経過してもなお、目に見えない放射線という不安と隣合わせの地域住民

や避難者への癒しになればという思いで開催の準備を進めました。

当日は、短期間での取り組みによるPR不足が影響して、来場者数は多くはなかったものの、来場された皆さんには、大いにベトナム民族音楽を堪能して頂きました。会場で実施したカンパも前回は上回るものとなりました。スケジューリングやPR等、全体十分なものとならなかったことを反省として、次に活かしながら、引き続きベトナム支援を行えたらと思っています。（事務局：新妻 浩）

2016 ベトナムアンサンブル公演日程

- 10月15日（土）宮崎・小林市／文化会館ホール
- 10月17日（月）鹿児島・姶良市／加音ホール
- 10月18日（火）熊本・益城町文化会館ホール
※熊本大震災被災地支援公演
- 10月19日（水）福岡／西南学院大学ホール
※交流プログラム（西新小学校）
- 10月20日（木）大分市／明日香学園ホール
- 10月21日（金）佐賀・小城市／生涯学習センター多目的文化ホール
- 10月22日（土）広島・福山市／福山東教会ホール
- 10月23日（日）※交流プログラム（福山市内海地区）
- 10月24日（月）徳島・阿南市／文化会館ホール
- 10月25日（火）香川・三木町／文化交流プラザホール
- 10月28日（金）福島・いわき市／いわき市文化センターホール
- 10月30日（日）埼玉・小川町／バトリシアおがわホール
- 10月31日（月）西東京市／保谷こもれびホール

写真で見る コンサート あれこれ



上左：西東京公演では隻腕のギターリスト橋本道範さんとアンサンブルの隻腕のギターリスト・ピンさんとの共演が実現。

上右：福山市では東教会ホールでの公演翌日、内海町で住民交流。内浦小学校の皆さんも参加。

橋本：福岡公演で講演するトゥッドゥ病院のドクさん。実行委員会で招聘した。
下：福岡市西新小学校での友情公演

掲示板

- 2017 ベトナムアンサンブル準備開始。今年は東日本中心に計画中。
- 日越の隻腕のギターリストが出逢い、4月22日、ホーチミン市で友好コンサートが計画される。
- ホーチミン市の村山記念 JVPF 日本語学校は10年目に入る。御礼申し上げます。
- ハザン省少数民族学生奨学金2年目のサポーターを新規募集。広島 HVPF のクアンチ、鹿児島 JVPF のラムドン奨学金も継続中。
- 2015年9月に完成した枯れ葉剤被害者記録DVD・第3版「トアとトゥオン」の継続頒布のお願い。
- 会員拡大の継続を推進中。登録をお願い致します。
- 第十回総会日程

2017年5月27日（土）14時30分～時

※19回理事会は同日13時より

便り (2016 年の活動から)

●「グエン・ティ・ビン女史の卒寿のお祝い」で思う

平松伴子 (JVPF 埼玉副会長)

ベトナムの若者たちの話を聞く度に驚くのは、「アメリカとの戦争で、ベトナム早くアメリカに負けるべきだった。そうすれば、日本のように経済発展して、もっと豊かになっていた。パリ和



花束を渡す団員の伊藤吉隆さんと平松さん

平協定など必要なかった」という理論である。

この言葉を聞いた時の驚きと怒りは今も私の胸に深く残る。それでは、何のために私たちはダイオキシン被害者支援の「仁愛の家」造りをしているのか？アメリカのベトナム侵略に加担した日本企業がダイオキシンを製造し、それをアメリカ軍がベトナム中部の山林地帯に大量に撒いた結果が現在の悲惨な状況を引き起こしていることを、ベトナムの若者たちは知らないのである。

それは「歴史教育の欠如」と「金、金、金の経済第一主義」の日本の状況そのままである。私達がハノイで「グエン・ティ・ビン女史の卒寿のお祝い」をした意味は「ベトナムの独立・平和・幸福」のためにアメリカと闘った最後の闘士であるビン女史の更なる活躍を期待し、若者たちに「パリ和平協定」の意味を知って欲しいと思ったからである。

私達は「金持ち」ではない。「200 万人餓死事件」「ダイオキシン製造売却」「ベトナム爆撃の爆弾製造売却」の張本人である日本人であることを率直にベトナムの若者たちに告白するべきだと私はいつも思っている。「親切的な金持ちの日本人」面はもうしたくない。ベ

トナムの「独立・平和・幸福」のために命をかけた先人の努力を、ベトナムの若者たちに知らせる責任がある。

※埼玉 JVPF の「2016 クアンナム省枯葉剤被害者支援訪問団」は 2016 年 8 月 1 日～6 日実施され、8 月 1 日、ハノイで元・ベトナム政府副大統領「グエン・ティ・ビン女史の卒寿のお祝い」を催した。

●ハノイ大学で平和写真展

高木豊彦 (JVPF 福岡支部)

日本国憲法公布 70 年を記念して写真を通して憲法 9 条の素晴らしさをハノイの学生に伝えたいとの思いで、「写真を通して平和を考える」というテーマで 8 月 24 日、25 日、ハノイ大学で写真集「9」の写真展を開催しました。(ハノイ大学国際部、日本語学部共催)

写真集「9」は憲法 9 条をテーマに「沖縄の辺野古」「水俣」「福島原発」などをとりあげ福岡で写真展を開催している写真家の亀山ののこさんが制作したもので、今回の我々の趣旨に賛同し、協力していただきました。

写真 1 つ 1 つに彼女の平和に対する思いや気持ちがメッセージとしてつづられ、この思いをどうハノイの学生に伝えるかが大きな問題でしたが、福岡大学の留学生メンバーが彼女と話し合いながら、メッセージに込められた思



いをベトナム語に翻訳してくれました。

開会セレモニーには国際部、日本語学部の先生や学生約 100 名が参加し、亀山ののこさんが写真についての思いを披露しました。

昨年の長崎原爆被爆 70 周年記念原爆写真展にひきつづき、「平和」をテーマにした文化交流を開催してきました。

●クアンチで第 8 期奨学金

友保義正 (広島 HVPF 副会長)

昨年初めて参加したベトナム平和友

好訪問団、そのときに得た感動、そして澄んだ瞳で我々を暖かく迎えてくれた少数民族寄宿高校の子供達に再び会いたいと思い、今年も第 11 次ベトナム平和友好訪問団に参加させて頂きました。

先の大戦にて被爆地となった広島と、ベトナム戦争の激戦地で枯葉剤被害を受けたクアンチ省が手を携えることの意義は大きく、これまで同省の少数民族寄宿高等学校に対し、8 期に渡る奨学支援を継続して参りました。

これまでの支援の成果として、多くの子供達が大学進学を果たしていると伺っております。今回は、その第 8 期授与式であり、将来への期待に胸を膨らませた奨学生一人一人に直接手渡します。前回もそうですが、全校生徒が歓喜の声で我々を歓迎してくれました。



コンソン島の「虎の檻」を初めて見学。ベトナム戦争が終結 41 年。かつて「監獄島」と恐れられた島の過酷な歴史が語り継がれている。

今回、クアンチ訪問後、南海に浮かぶコンソン島の監獄「虎の檻」も初めて見学しました。

●10・21 にグエン・ドックさんを招く

広島 HVPF

訪問団派遣に先立ち、HVPF (広島ベトナム平和友好協会) は 10 月 21 日、ホーチミン市にあるツウドウ病院に勤務しているグエン・ドックさん (枯葉剤被害の双子のうちの一人) を日本に招き「トーク&コンサート in 東広島」を開催しました。

